



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人

日本クリニカルパス学会

No.
45

発行日

2022年3月28日

in 山形

第21回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2021.11.26~27

第21回学術集会 会長、済生会山形済生病院
石井政次

令和3年11月26日、27日に第21回日本クリニカルパス学術集会を山形におきまして開催させていただきました。

当初は、現地開催の予定でしたが、コロナ禍であり、規模を縮小してのハイブリッド形式で開催いたしました。長



期間に渡り勉強できるようにオンデマンド形式も取りました。オンデマンドは令和4年1月24日まで継続いたしました。ハイブリッドの欠点は、予算が大幅に増大することです。そこで3会場の予定を山形テルサのみ1会場とし、現地とオンラインで全国をつなぎ開催することにしました。当初現地参加人数が予想つかず心配しておりましたが、現地参加が約500名で計約1,350名の参加でした。

テーマは、“時代に即するみんなのクリニカルパス”といたしました。超高齢化社会・少子高齢・人口減少による疾病構造の変化、また病床機能分化により、以前のような自己完結型の医療は不可能となりました。つまりは機能の異なる医療機関が得意な領域の医療連携を行う地域完結型医療が中心となりました。これを担うツールこそが、地域連携クリニカルパスです。院内パスはもちろんのこと地域連携パスを中心に各病床群をつなぐパス、訪問看護パスや在宅でのパス、在宅と介護系のパス、看取りのパスなどまた

▶ 第21回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告
第21回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して
2021年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞を受賞して

地域ボランティアとの連携、増えている認知症パス・精神科パスなど時代に合った連携テーマを中心に行いました。

シンポジウムも新型コロナの治療、肺炎、心不全、がん、認知症の地域連携パス、地域に根差した在宅医療の連携、タスクシフトの問題、パスの教育の在り方など充実した内容で活発なディスカッションがありました。パネルディスカッションでは、経営を意識したパス、バリエーションの体験、緩和ケア、大腿骨頸部骨折の地域連携パスで盛り上がりました。その他教育セミナー、論文の書き方や今後パス学会の中心のテーマとなってくるePathの特別企画など盛会でした。

講演にも力を入れました。招待講演、特別講演は、山形に関連する講師にお願いし、山形をアピールいたしました。東北芸術工大学の中山ダイスケ学長の“芸術はこころの病院”は、病院にただで心が癒される芸術を教えてくださいました。慶應義塾大学先端生命科学研究所の富田所長の何もない山形県鶴岡市の田舎町を一大研究所の町に作り上げたその行動力・熱意には感動いたしました。加茂水族館の名誉館長の村上先生は、倒産寸前の老朽・弱小・貧乏水族館を世界一のクラゲ水族館に蘇らせた熱意にも感激しました。岡田まさえ先生のおみやげのレシピには農林水産大臣賞をいただいただけあり、食の大切さを教えられました。特別教育講演の“教育とハラスメントの分岐点”では、熱い指導がいつの間にかパワハラになっており、それは“自分は善であるとの確信と、他人への共感の欠如”が問題との肝をついた内容で、最近の若い人たちの考え方、何を求めているのか、どう対処すべきか、即明日から職場で役立つ有用な講演でした。

非常に充実した学術集会だったと思います。そして山形給食センターさんには、学術集会専用の弁当、芋煮、山菜そばを提供していただき感謝しています。学術集会に携わっていただいた、理事、監事、評議員の皆様、プログラム委員の方々、スポンサー企業、スタッフの皆様、学会本部、コンベンションの方々には心から感謝いたします。

in 山形

第21回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2021.11.26~27

岩手県立磐井病院 理学療法士
田中結貴

このたび、演題「がんの手術に関するクリニカルパスへのリハビリ介入効果」につきまして、学術集会の最優秀賞を受賞することができ大変光栄にしております。



今回、演題を検討するにあたり当院の佐藤耕一郎院長をはじめクリニカルパス委員会の指導を受け、ようやく発表まで漕ぎ着けたといったところでした。ですから、発表できただけでもありがたいと思っておりましたので、受賞を知った時は身が縮む思いといいますか腰が抜けそうになりました。

発表内容についてです。当院外科のがん手術パスに関して、2019年度までは医師が術後のADL回復が思わしくない患者を判定し、その都度リハビリオーダーを行っていました。それにより、リハビリ開始が遅れ、ADL回復の遅延、入院期間の延長、さらには自宅退院率の低下を招いていた可能性が考えられました。そこで、2020年度よりがん手術に関連する80パスにリハビリ介入(理学療法・作業療法のリハビリオーダー、リハビリ総合実施計画書の作成、退院時リハビリ指導)を組み込みました。具体的には、術前オリエンテーションとしてADL評価、術後の呼吸状態を予測した呼吸法の指導、入院中に行うリハビリ内容の説明を行い、術後早期より呼吸療法、関節運動、筋力トレーニング、歩行、ADL練習等を開始、退院時には自宅で行うリハビリ指導を実施しています。これにより、術後早期のADL回復、入院期間の短縮、自宅退院率の向上、そして収益面での増収について、2019年度までのデータと比較しその有用性を述べさせていただきました。

今回の受賞を受け、私自身大変励みになりました。当院のクリニカルパス活動にも勢いがついたように感じています。また、リハビリテーション職種がクリニカルパスに介入することによる効果を認めていただいたように受け止め嬉しく思います。是非とも、多くの病院でがん手術に関するクリニカルパスへのリハビリ組み込みをご検討され、その効果を検証していただければ幸いです。私自身も、リハビリの進行状況やADLの回復過程の点で最終アウトカムに対するクリティカル・インディケーターを設定し、その検証を進めていきたいと考えています。例えば、術後1週間で歩行が自立できた群とできなかった群とにお

ける最終アウトカムでのバリエーション発生状況に関する検討などです。

今後も、リハビリテーション職種の立場から、患者・医療者・病院経営の面で有益な取り組みを進めていけるよう努めて参ります。引き続きご指導いただけますと幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。



左 中井信也先生 中央 田中結貴 右 濃沼政美先生

**【日本クリニカルパス学会 第21回学術集会賞 受賞者】
最優秀賞：**

OP-199 「がんの手術に関するクリニカルパスへのリハビリ介入効果」

岩手県立磐井病院 田中 結貴

優秀賞：

OP-200 「地域薬局連携インスリンフォローアップパスプロジェクトの運営」

帝京平成大学 濃沼 政美

OP-203 「ePath」を用いた在院日数延長に関連するバリエーション因子の検討

九州大学医学系学府 中井 真也

ノミネート賞：

OP-197 「クリニカルパス推進プロジェクトPart4－診療科別パス活用報告－」

兵庫県立尼崎総合医療センター 宮平(進藤)亜紀子

OP-198 「コロナ禍での電子カルテ更新に関わるクリニカルパスWGの活動」

富山県立中央病院 飛世 照枝

OP-201 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)治療・ケアの標準化」

手稲溪仁会病院 五十嵐美沙

OP-202 「認知症ケアパス運用から見えた効果」

山形県立中央病院 板垣 和人

OP-204 「ICUにおける診療科横断的なクリニカルパス改訂活動について」

四国がんセンター 藤本 隆一

【2020年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

原著：第21巻第2号掲載

「クリニカルパスを用いた大腸切除術後早期経口摂取開始の効果、患者満足度の前向き比較研究」

盛岡市立病院 須藤 隆之

実践報告：第22巻第1号掲載

「小児食物経口負荷試験クリニカルパスの作成」

福山市民病院 青木 有加

【2021年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

研究報告：第22巻第3号掲載

「クリニカルパスにおけるリハビリテーション進捗のバリエーション分析で心不全患者の予後不良因子を推定する」

岡山市立市民病院 時岡 浩二

原著：第23巻第1号掲載

「大腿骨近位部骨折前のBarthel Index(BI)と認知症によるマトリックス分類－BI損失量分析による予後予測－」

鶴岡地区医師会 三原 一郎

【2021年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞】

A functional learning health system in Japan: Experience with processes and information infrastructure toward continuous health improvement

(Learning Health Systems 2020:e10252)

済生会熊本病院 医療情報調査分析研究所 副島 秀久

in 山形

**2021年度日本クリニカルパス学会
優秀英語論文賞を受賞して**

～皆さんの熱をもらって書き上げました～

済生会熊本医療情報調査分析研究所
副島秀久

このたび、LHS Journalに掲載されました論文「A functional learning health system in Japan: Experience with processes and information infrastructure toward continuous health improvement」で栄えある優秀英語論文賞を受賞いたしました。審査に携われた今田先生はじめ学会関係者の方々に改めて感謝申し上げます。



この論文に出てくるアウトカム志向型クリニカルパスは2000年冬、ニューヨークのロングアイランドで故カレンザンダー女史の講演を目からうろこで聴いたのが発端です。目標を設定してプロセスを管理するという手法はそれまでの医療界にはありませんでした。もし彼女がアウトカムという考えをパスに組み込まなかったら、パスは今でも予定表に過ぎなかったと思います。凍てつくニューヨークでもらった熱と一緒に参加した多くの学会員に伝わり日本のパス活動の中心的役割を果たしてきました。

論文は日本クリニカルパス学会が中心となってまとめたBOM、アウトカム志向型パス、OATという概念などについて説明し、これを使って様々なデータを収集し解析、結果をパス大会で議論し組織全体に周知しLHSを作るという、いわばPDCAサイクルを回し続けてきた活動内容をまとめたものです。おかげさまで年6回のペースで開催してきた当院のパス大会も130回を数え、当院の質改善活動の主要な場となっています。最近は院外の参加者、とくにコロナ禍のなかでもオンラインで参加される方も多く、当院のパス活動の一端を共有し、ともに意見を交換する場でもあります。

学会にはその立ち上げからずっとかかわってきましたが、私の最も大きな財産はカレンザンダー女史をはじめ須古、日野原、福井先生などの教えを受けたことのほか、多くの会員と知り合えたことであり、そのおかげで楽しく有意義な学会活動ができました。

また、第三代目の理事長も拝命し、様々な事業を進めることができました。2019年度には町田会長のもとに熊本で2度目の学術集会を開催でき、2021年に理事長を退任、山中先生に引き継ぎました。コロナ禍で十分な挨拶もできず退任を迎えましたが、今後は学会活動を陰から支えてい

きたいと思っています。そういった意味で医療情報調査分析研究所を院内に設立しました。まだまだ不十分な活動ですが、パスの普及や導入、教育、バリエーション分析のお手伝いなどに力を入れていきたいと考えております。

Soejima H, Matsumoto K, Nakashima N, et al., Learn Health Sys 2020;e10252.

<https://doi.org/10.1002/lrh2.10252>



リレーエッセイ 第39回
パスに魅せられて
一宮西病院 産婦人科 松原寛和

松波総合病院看護師の今尾裕子さんからリレーエッセイのバトンを受け取りました、愛知県一宮市、一宮西病院産婦人科の松原寛和です。

私とパスとの出会いは、前任地赴任直後に紙カルテから電子カルテへ移行した時です。初めはパスのことをよくわからないまま、紙パスの内容を電子パスに入力していました。そして、その翌年に熊本で開催された第7回日本クリニカルパス学会学術集会に参加した折に、多職種の方が同じ目標に向かい発表、討論されているのを見て、パスがチーム医療の原点であることを実感しました。

現在の病院に赴任してからは、パス委員会委員長として院内のパス活動をどう盛り上げていくか試行錯誤を繰り返していました。2019年4月に、電子カルテのバンダー移行に伴い、紙パスから電子パスに移行する際に、民間病院



教育セミナー指導者養成コースにて
左から3人目：目黒康平さん、右から1人目：筆者

である強みを生かし、全診療科医師の協力を得てパス作成を推進していくことができました(日クリニカルパス会誌 22:169-175, 2020)。

さらに、私自身、大変良い学びの経験になったのは、2019年11月に大阪市梅田で開催された第3回クリニカルパス教育セミナー指導者養成コースに参加できたことです。今尾裕子さんとはこのセミナーで初めてお会いしました。

セミナーでは1グループ5名で、1日目は「院内全職種の新入職者を対象」、「パス委員になったスタッフを対象」とした2パターンの研修プログラムの立案と模擬研修の準備でした。私たちのグループは小学校の遠足を計画する際に、先生(医療者)の立場になって生徒(患者)を引率する過程をパスに組み込む設定としました。職種、パス活動の経験が異なる5名で意見を交わして研修の準備をしていくことはとても楽しく、講義や食事をはさみながら行った計5時間のグループワークが充実した時間となりました。2日目は模擬研修を午前、午後で2回に分けて実施することにより、研修を受講する側、実施する側の両方の経験ができ、その上、パスの経験がない方にどのような内容の講義をすると興

味、理解を示していただけるか、グループワークをどのように進めていくと効果的であるかなど、研修のノウハウを学べたことがセミナーに参加して一番良かったことです。この経験を生かして当院では、2020年、2021年に新入職看護師向けに研修を実施しました(第21回クリニカルパス学会学術集会 OP-083)。研修後のアンケートでは、構成・内容、進行に関しては満足できたという意見が多く、大部分の参加者がパスを理解できたと回答され、とても嬉しく思いました。

来年度は全職種の新入職者に対象を拡げて研修を企画しています。私はパス医療=チーム医療だと実感しています。そして、院内でのパス教育、人材育成が、医療の質向上にもつながっていると思っています。大切な患者さんへの治療、医療の質向上のためにも、今後もクリニカルパスを広めていきたいと考えています。

今回は、梅田の教育セミナーで一緒していただいた、東京医療センター診療情報管理士の目黒康平さんにバトンをお渡しします。

事務局より

第22回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2022年11月11日(金)～12日(土)

会 場：長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
(岐阜県岐阜市長良福光2695-2)

会 長：松波 和寿
(社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長)

テ ー マ：Diversity 2022 -新世代のクリニカルパス-
プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、招請講演、シンポジウム、パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セミナー、一般演題(ポスター発表口演)、クリニカルパス展示など

参加登録募集期間：

2022年4月中旬～10月(予定)

演題募集期間：

2022年5月上旬～6月(予定)

第22回学術集会公式ホームページ：

<https://www.cp22mgh.com/>

第22回
日本クリニカルパス学会
学術集会

Diversity 2022
一新世代のクリニカルパス-

会期 2022年11月11日・12日
会場 長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
会長 松波 和寿 (社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長)

社会医療法人蘇西厚生会
松波総合病院
TEL 058-388-0111(代)
FAX 058-388-4711
E-mail cp22@mghg.jp
〒501-6062 岐阜県羽島郡松田町185-1
URL https://www.cp22mgh.com/

2022年度

資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

<http://www.jscp.gr.jp/nintei.html>

学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】 主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする

【応募期間】 2022年4月1日(金)～5月31日(火)

<http://www.jscp.gr.jp/josei2.html>

優秀英語論文賞(JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】 日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】 2022年4月1日(金)～5月31日(火)

<http://www.jscp.gr.jp/ronbun.html>

クリニカルパス教育セミナー 基礎編

『楽しく学ぼうクリニカルパス ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2022』

2022年は、東京会場での開催を予定しております。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。

【東京会場】 2022年7月2日(土) 13:00～17:00 日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル)

詳細は学会ホームページに公開予定です。

日本クリニカルパス学会 会員募集中！

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記URLより学会ホームページをご覧ください。

〈会員の特典〉

- ・ 本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・ 学術集会で演題発表ができる。
- ・ 学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・ 認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・ 本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40,000円

年会費：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40,000円

<http://www.jscp.gr.jp/contact.html>



発行

一般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-10 外苑マンション605

TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ：<http://www.jscp.gr.jp/>